

令和3年度使用

中学校用教科用図書研究資料

特別の教科 道徳

宮崎県教育委員会

1 道徳科の目標の達成及び教材の構成・配列等

〔観点1〕 中学校学習指導要領に示された道徳科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 道徳科の目標を達成するために、全学年に「いじめ問題」「生命尊重」に関する3つの教材をユニット化することを通して、1つのテーマを深く学習できるように構成するなど、内容項目の関連を図りながら指導できるような構成・配列の工夫が見られる。
17 教 出	(1) 道徳科の目標を達成するために、取り組みやすさを重視した内容と分量で構成されており、生徒の心を揺さぶる読み物教材や問題解決的な学習を取り入れた教材を配置するなど、学びやすく、教えやすい教材の構成・配列の工夫が見られる。
38 光 村	(1) 道徳科の目標を達成するために、1年間を3つのシーズンに分け、関連性の深い内容項目が有機的に結びつく教材を複数配置することで、生徒の成長や問題意識に寄り添いながら学びが深まるような構成・配列の工夫が見られる。
116 日 文	(1) 道徳科の目標を達成するために、重要なテーマとして「『いじめ』と向き合う」「よりよい社会と私たち」を配置し、複数の教材やコラムをユニット化するなど、1年間の学習の流れを重視しながら、より深い学びが得られるような構成・配列の工夫が見られる。
224 学 研	(1) 道徳科の目標を達成するために、特に「生命の尊さ」を重点的に扱い、他の内容項目とともに「いのちの大切さ」を考えさせる教材を複数配置するなど、多面的・多角的に考えることができるような構成・配列の工夫が見られる。
232 廣あかつき	(1) 道徳科の目標を達成するために、喫緊の教育的課題である「いじめ防止」との関連を考慮し、「自主、自律、自由と責任」「思いやり、感謝」「生命の尊さ」「よりよく生きる喜び」を重点項目とし、年間を通して複数配置するなどの構成・配列の工夫が見られる。
233 日 科	(1) 道徳科の目標を達成するために、第1学年「自己理解」第2学年「自己啓発」第3学年「自己実現」のように、キャリア教育の観点から学年間の繋がりを重視した教材を複数配置するなど、道徳的問題に向き合わせるための構成・配列の工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的に自分とのかかわりで考えたり、多面的・多角的に考えたりできるような学習活動を展開するために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	<p>(1) いじめ問題については、「生命尊重ユニット」と「いじめ問題対応ユニット」を設定し、意図的な視点や意見を提示することで、多面的・多角的に考えたり、主体的に自分とのかかわりで考えたりできるなどの工夫が見られる。</p> <p>(2) 多面的・多角的に考えることができる学習活動を展開させるために、新聞の投稿欄の記事をもとにした教材や、漫画の表情や台詞を考える教材を活用するなど、様々な視点から学習することができる工夫が見られる。</p>
17 教 出	<p>(1) いじめ問題については、3年間を通して、いじめを直接的に扱った教材や間接的に考えさせる教材、道徳科以外でも活用できるコラムを配置するなど、生徒自身が問題意識をもち、主体的に自分とのかかわりで考えることができる工夫が見られる。</p> <p>(2) 多面的・多角的に考えることができる学習活動を展開させるために、教材末の「学びの道しるべ」では、何を、どのように考え、話し合っていくのか、学習の流れや発問例が分かりやすく示されているなどの工夫が見られる。</p>
38 光 村	<p>(1) いじめ問題については、例えば「深めたいむ」において、日常に起こりがちな問題場面を取り上げることで、自己も他者も大切に生きることを考えさせ、情報モラルとも関連させるなど、主体的に自分とのかかわりで考えることができる工夫が見られる。</p> <p>(2) 多面的・多角的に考えることができる学習活動を展開させるために、全学年に「広げよう」を設け、一つの答えが出ない課題や、解決が難しい課題、生徒に考えてもらいたい現代的な課題を取り上げるなどの工夫が見られる。</p>
116 日 文	<p>(1) いじめ問題については、3年間を通して、いじめが起きやすい時期に、生徒にとって身近な問題を扱った教材やいじめへの理解を深めるコラムなどを複数配置することで、主体的に自分とのかかわりで考えることができる工夫が見られる。</p> <p>(2) 多面的・多角的に考えることができる学習活動を展開させるために、生徒にとっての身近な問題や、社会で活躍する人々について、「社会への参画」と「将来の生き方」の視点から教材をユニット化するなどの工夫が見られる。</p>

224 学 研	<p>(1) いじめ問題については、特設ページ「クローズアッププラス」で、「生命の尊重」「いじめ防止」につながる3つのテーマを扱うなど、他者とよりよく生きることや、主体的に自分とのかかわりで考えることができる工夫が見られる。</p> <p>(2) 多面的・多角的に考えることができる学習活動を展開させるために、考えを深めさせる問いかけを示した「?ボックス」や「!ボックス」、教材をもとに考えを深めさせる特設ページ「深めよう」を設けるなどの工夫が見られる。</p>
232 廣あかつき	<p>(1) いじめ問題については、巻末に「いじめを許さない私たちの心」を配置し、道徳の内容に示された4つの視点から考えを深めたり別冊資料でグラフや構造図を用いたりするなど、主体的に自分とのかかわりで考えることができる工夫が見られる。</p> <p>(2) 多面的・多角的に考えたりすることができる学習活動を展開させるために、「問題解決的な学習」や役割演技・動作化などを通して深く考える「体験的な学習」を促す教材を配置するなど、道徳的諸価値を深めることができる工夫が見られる。</p>
233 日 科	<p>(1) いじめ問題については、いじめや不正に負けることなく、対応していく道徳性を育成するために、「LGBT」「障害者差別解消法」の問題についての教材を取り上げるなど、主体的に自分とのかかわりで考えることができる工夫が見られる。</p> <p>(2) 多面的・多角的に考えることができる学習活動を展開させるために、「書いてみよう」「もっと知りたい」等のコラムを配置し、様々な問題を考える経験を積み重ねながら、価値観の多様性に気付かせるなどの工夫が見られる。</p>

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	<p>(1) 利便性や生徒にとっての分かりやすさについては、巻頭で「話し合いの手引き」や基本的な授業の流れを示した「道徳の授業はこんな時間に」を設けるなど、主体的・対話的な学習を進めるための工夫が見られる。</p> <p>また、各教材に自分の考えや思いを書き込む「つぶやき」の欄や巻末に「自分の学びを振り返ろう」を設けることで、学習を継続的に深められ、成長の記録として活用することができるなどの工夫が見られる。</p>
17 教 出	<p>(1) 利便性や生徒にとっての分かりやすさについては、巻頭に、「道徳科で学びを深めるために」を設け、多様な考えを深めていく学習場面を例示することで、人間としての生き方について考えを深めるための工夫が見られる。</p> <p>また、学習の感想を記入する「授業の記録」や、「道徳の学びを振り返ろう」を巻末に設けることで、学びを振り返り、自分のよさや課題に気付くなど自己を見つめ直すことができる工夫が見られる。</p>
38 光 村	<p>(1) 利便性や生徒にとっての分かりやすさについては、巻頭に「道徳の授業を始めよう」、「どうやって学ぶの?」や「なぜ学ぶの?」を設け、学びを見通し、目的意識をもって授業に向かうことができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) また、「道徳の学びを振り返ろう」のページやポートフォリオ形式の「学びの記録」を巻末に設け、考えたことや感じたことを書き込ませていくことで、自ら考えを深めたり、成長を実感できる記録として活用したりできるなどの工夫が見られる。</p>
116 日 文	<p>(1) 利便性や生徒にとっての分かりやすさについては、巻頭に「道徳科で学ぶこと」や「道徳科での学び方」を設けることで、生徒が「考え、議論する道徳」の基礎・基本を理解し、主体的に学習に取り組むことができるなどの工夫が見られる。</p> <p>また、別冊の「道徳ノート」では、生徒の学習状況や考え方の変化などを毎時間記録することができ、さらには、自分と友達の意見を書く欄を設けることで、自分の意見と友達の意見を比べて考えることができるなどの工夫が見られる。</p>

224 学 研	<p>(1) 利便性や生徒にとっての分かりやすさについては、巻頭に学び方や学ぶ内容を想起できる「明日への扉を開く」や「よりよく生きるための22の鍵」を設けることで、考えを深める4つのポイントを押さえながら、主体的に学習に取り組むための工夫が見られる。</p> <p>また、各教材の問いに対して自分の考えを記入できる書き込み欄や巻頭に「マイプロフィール」、巻末に「心の四季」と「学びの記録」を設けることで、年間を通して自分の成長を実感することができるなどの工夫が見られる。</p>
232 廣あかつき	<p>(1) 利便性や生徒にとっての分かりやすさについては、例えば2年生の巻頭に「自分を考えようー道徳の時間とは」を設け、道徳科における学習活動や考える視点を具体的にイメージできるなどの工夫が見られる。</p> <p>また、別冊の「道徳ノート」では、授業で考えたことや感じたことを記述する「学習の記録」や、教材ごとに学びを振り返る「心のしおり」を設けることで、心の記録として自己の成長に気付かせることができるなどの工夫が見られる。</p>
233 日 科	<p>(1) 利便性や生徒にとっての分かりやすさについては、巻頭に「道徳科って何を学ぶの？」を設け、道徳科の授業における見通しをもたせることで、生徒一人一人が自分自身の問題として「考え、議論する」ことができるような工夫が見られる。</p> <p>また、2年「わたしのカルテ」において、将来の自分の姿を描いたり、巻末の振り返りのページにおいて、4つの視点ごとに数値化して評価させたりすることで、自らの成長を実感し意欲の向上につながるなどの工夫が見られる。</p>